



果試ニュース

第7号 平成10年3月



小型油圧式ショベルを利用したミカン苗木の移植

温州みかんは平成6・7年の干ばつ等の影響もあって、全県的に多くの園地で8年産が不作、9年産が豊作となり、強い隔年結果が進行している。これを改善して安定生産を図るには、裏年であれば、せん定を遅くして、程度も軽くするといったことだけでなく、施肥や土壌管理等、裏年なりの総合的な管理を行う必要があることはいうまでもない。早いうちに隔年結果をなおしたいものである。

ところで試験研究においても、単一の技術開発だけでなく、農家経営を念頭においた、総合的に技術体系を組み立てる実証試験が増えてきた。いま、高品質で、しかも安定多収の技術体系を確立することが求められているが、そこにはいくら品質の高まる技術でも、それが単収を落とすとか、労力的・経営的に受け入れられなければ現場に生かされない。このような総合的な技術開発に加えて、さらに軽労働・省力機械化栽培体系を実証することが求められ、試験場では、こうした体系化した課題にも鋭意取り組んでいるところである。

場長 向井 武